

個の身体性と思考性からの群衆および連携への投影

経済総合分析 木下博之

1. 目的

群衆,crowdおよび連携,relationshipの成立と、その基礎にある、人々の身体性と思考性との
 連関および人物の多面性を調べる。個々人に社会調査票を手渡し、個々の回答から個人の性
 質を把握するとともに、群衆および連携を成した際の相性をも被験者に問うて集計し、関連
 性を分析する。回答の主観性を踏まえつつ、群衆および連携の成否を客観的に評価もするこ
 とで、その投影を評価する。

2. 方法

思考性および身体性について区分分けをして、グラフにて表現する。その際に、座標系での
 中央、上下左右の五つの方角を、木火土金水、ないしは、wfemaで表す。座標系は、社会性
 ごとに#、bと呼び、加えて、行動面での存在性を期待をΔとする。#は、PDCA環などの
 円環の手順とともに市場の興奮と向き合う商業主義的なあり方を、bは、成果の実現を信じ
 て制作に打ち込む産業主義的なあり方を示している。#、bの座標系において、横軸および
 縦軸は、時間および価値を示し、それらをt軸およびv軸という。これらは、近代的な認識で
 ある。

#系とb系との比較から、商業と産業、左派や右派といった志向性を、Δ系とΔ系との比較
 からは、ストレスと欲求不満(frustrations)を伺うことができる。

3. 結果

ある調査協力者の回答を基に、#、b、Δを軸にして、w,e,f,m,aをレーダーにて表現す
 ると下の図のようになった。

4. 結論

このLandscalarと名づけられた手法により、調査協力者より、各人および組織のあり方が整
 理して示され、人の二面性を理解し肯定的に受け止めることができるなど、今後の行動の指
 針となるという評価を得た。これからも実証により現代のおよび古典的な認識方法の連関や
 「引き寄せ」など役割への魔術めいた希求からの解放と自己実現への道を示していく。

